

札幌市立
手稲西中学校
学校だより
第13号



令和7（2025）年
3月17日
発行
無断転載を禁ず

卒業おめでとうございます（卒業式式辞 抜粋）

校長 田丸 明史

卒業、おめでとうございます。皆さんの卒業アルバムを開くと、マスクをした入学式からスタートします。コロナ禍ということもあり、今ほど小学校と中学校の交流が無い中、不安な気持ちを抱えながら入学してきたことでしょう。この年の2月、ロシアがウクライナに侵攻し、テレビもネットも連日、大々的に取り上げていました。不安定な社会情勢は、13歳にはあまりに酷な世の中だったと思います。

また、人口知能（AI）を始めとする最新テクノロジーは、もはや人間の能力に迫る勢いで進化し、私たちの日常生活や仕事において、革新的な変化をもたらしました。普段使っているスマホの画面には、私たちの好みに合わせた話題や広告が並び、まるで家族や友達よりも、自分のことを知っているようで、恐ろしくなります。こんな時代だからこそ、私たちは、人にしかできない体験をし、人にしか味わえない感動をし、人にしか作れない思い出を残すべきだと、私は思います。それを形にしてきたのが皆さんです。今ここにいる自分を、大いに誇りに思ってください。（中略）

皆さんが使ってきた教科書には正しい知識や情報が記載されていますが、世の中はどうでしょうか。正しいことと同じくらい、いやそれ以上に偽りがあるかもしれません。それに気が付くためには、正しいことを学ぶ事が一番です。たくさん正しいことを知っていれば、その数と同じだけ偽りに気が付くことができるのです。正しいか偽りか、最後に判断するのは自分自身です。自分で考え、自分で判断し、自分で行動するのです。卒業後の進路は、皆、様々ですが、これまでの学びを土台に、さらに多くの知識を積み上げていってください。

今年は、阪神淡路大震災から30年、東日本大震災から14年目の春です。地震大国の我が国は、自然災害を避けることができません。これまで何度も被災し、何度も復興してきました。「復興」という言葉を目にするたびに思い出すのが、女川一中の当時3年生が詠んだ俳句です。「見上げれば かげきの上に こいのぼり」この句は17言語に翻訳されて、ラジオの国際放送で全世界に放送され、49の国と地域の方から、800を超えるメッセージが寄せられたと言います。人の思いは、世代を越え、地域や国境を越え、つながります。皆さんが式の最後に歌う「ほらね、」もきっとそうでしょう。失敗を恐れず、夢をもって、自分は自分らしく、あなたはあなたらしく歩き続けられればよいのです。大丈夫、私たちは一人じゃありません。誰も一人じゃありません。皆さんに伝えたかった思いを全て込め、式辞といたします。



旅立ちの言葉（卒業生代表の言葉）

小野 亨馬

春らしい暖かな日差しを感じられるようになりました。今日、こうして素晴らしい卒業式を開催していただいたことに、心から御礼申し上げます。3年前、私たちは制服に身を包み、期待と不安の混ざった気持ちを抱えながらこの手稲西中学校に入学しました。

1年生の頃は、新型コロナウイルスの影響で出来ることに限界がありました。しかし、2年生、3年生と少しずつ規制が緩和され、行事や授業での活動の幅が広がったことで、特に3年生では私たちが思い描いていたような中学校生活を送ることが出来ました。その中で、私が特に印象に残っている行事を二つ紹介します。

一つ目は修学旅行です。仲良く過ごしてきた友達と3日間行動を共にしながら、梶鼻溪、金色堂、宮沢賢治童話村などの名所を巡ったり、ねぶたやきりたんぽといった東北地方の文化に触れたりしました。ホテルでは、みんなでお菓子を食べたり、夜遅くまで起きて恋バナをしたりと、修学旅行だからこそ出来た楽しい思い出が、昨日のことのように思い出されます。また、修学旅行を通して、同じ係の人同士でカバーし合ったり、班行動をする時に班長に任せきりにせず、みんなで話し合いながら行動したりして、責任を分かち合うことで、みんなで楽しいと思える修学旅行を作り上げることが出来ました。

二つ目は西中カルチャーフェスティバルです。西フェスで私が執行部としてどんな役を演じていたか覚えていませんか。名探偵コナンに登場する毛利蘭役です。私が登場した時は皆さん盛り上がり gave くれましたが、私の力だけでは西フェスを最後まで盛り上げることは出来なかったでしょう。最後まで盛り上がる西フェスにすることが出来たのは、執行部を始めとした本部会の存在があったからです。自分の役割の責任だけではなく、西フェスを成功させるという大きな責任を全員で分け合って、全員で模索しながらより



良いシナリオを完成させられたからこそ、西フェスを成功に導くことが出来ました。

さて、今までの話の中で繰り返し出てきた「責任」について、私が本当に大切だと思うことを在校生の皆さんに伝えたいと思います。皆さんは学級内で一人一役をしたり、行事で自分の役割を果たしたりする中で「責任を持って取り組む」ということは身に付いていると思います。ですが、本当に大切なのはその先にある「責任を分かち合う」ということです。自分だけではなく、他の人にも目を向けて協力することで、作業がより効率的になりますし、何よりクラス全体で助け合おうという団結力が生まれます。しかし、中には他の人に目を向けて生活することが難しいと感じる人もいるかもしれません。それでは、どうしたら出来るようになるのでしょうか。朝起きた時に「一回でも誰かの助けになれるように行動しよう」と心の中で思ってみてください。そして、どんなに些細なことでも良いので行動に移してみてください。一人一人が協力する意識を持つことで、小さな協力の輪が広がり、いつしか「責任を分かち合う」という大きな協力が繋がります。1、2年生の皆さん、中学校生活で大きな壁に当たっても、生徒会スローガン「主人公」にもあるように、みんなで協力し、みんなで責任を分かち合って乗り越え、西中の新しい物語を作っていくください。

最後になりましたが、先生方並びに保護者の皆様のお陰で楽しい思い出を作り、この3年間を安心して過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。私たちは今日で中学校を卒業しますが、それは「新たな道に進む」ということでもあります。これからも私たちの成長を見守り、応援していただけると幸いです。最後に、この手稲西中学校の益々の発展と繁栄をお祈りして答辞とさせていただきます。



送る言葉（在校生代表の言葉）

時松 明李咲

冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じられる季節となりました。 今日、3月14日、手稲西中学校を卒業される3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。2年前、新しく始まる中学校生活に期待と不安を抱きながら入学した私たちを、皆さんは優しく包み込むような笑顔で迎えてくれました。そして、全校協議会や生徒会行事、その他様々な場面でリーダーシップを発揮し、周りを引っ張っていく姿は私たちの憧れでした。今年度は全校で交流する機会が増え、3年生が活躍する姿から多くのことを学びました。

スポーツフェスティバルでは、仲間に対する熱い応援、それに応えようと懸命に挑む3年生の姿に、1、2年生だけでなく特別参加した手稲西小学校の6年生までもが圧倒されました。その姿を見て、一人一人が全力で挑む心と、それを支える応援があつてこそ、このような強い団結力が生まれるということを学びました。

西中カルチャーフェスティバルでは「Art～個性で描こう～」というテーマを基に、調べ発表部門、ステージ部門、装飾部門の3つに分かれて発表が行われました。調べ発表部門では、差別と多様性について寸劇を入れながらわかりやすく説明し、聞き手の興味を引く発表となっていました。差別についての課題と多様性の大切さを知るきっかけとなりました。ステージ部門では、卒業間近の同じ場面を何度も繰り返す「卒業ループ」という物語を発表していました。ループしている状態が私たちに伝わるように一つ一つの演出やセリフ、行動など細部にまでこだわって演じる姿がとても印象深かったです。また、再現度が高い先生方のコスプレで登場するなど、思わず笑ってしまうような場面も多々ありました。細部までの工夫とレベルの高い表現力に会場全体が引き込まれました。装飾部門では、「東北アート展」という展示会が開かれ、3年生が修学旅行で訪問した場所に関する様々な展示を見ることができました。秋田の巨大きりたんぽに感想を書いたメッセージカードを貼ったり、岩手のわんこそばをモチーフにしたキャラクターの顔出しパネルで写真撮影ができたりと参加型の作品になっており、来た人を楽しませたいという3年生の気持ちが伝わってきました。どの部門も皆さんの豊かな発想力と自分たちも楽しみつつ周りを盛り上げていく力で西フェスを作り上げ、私たちを引っ張ってくださいました。それぞれの個性を尊重し合い、細かな部分までこだわることや、作品に情熱を注ぐ姿がとても輝いていました。

11月の総合的な学習の時間では、2、3年生は手稲区近辺の事業所で職業体験をしました。体験先でのグループ交流の際には3年生が主体となって話を進め、意見が出づらいつきは優しく声かけをしてくれるなど、話しやすい雰囲気を作ってくれました。体験先では礼儀正しく堂々とした姿で私達を先導し、困ったときにはすぐに声をかけ、助けてくれました。周りを見て判断し、すぐに行動する姿に3年生の偉大さを改めて実感しました。私たちを支え学校を引っ張ってくださった皆さんも、今日、この学校を卒業します。中学校で支えあった仲間と別れ、進学後は、新たな環境、新たな友人が皆さんを待っています。それぞれの道に進む中で困難や大きな壁にぶつかることもあるでしょう。そんなときはこの手稲西中学校で得た「仲間と協力し互いに高め合う力」や「それぞれの個性を尊重し合いながら一つ一つのものを作り上げる力」を生かし、乗り越えていってください。

第71期生徒会スローガン「主人公」にもあるように、一人一人の個性を大切に、仲間と協力し合いながら、学年の垣根を超えて互いに高め合っていけるように、在校生一同、日々精進していきます。そして私たちは、皆さんが大切にしてきたこの二つの力を受け継いでいきます。最後になりましたが、皆さんの益々のご健康とご活躍をお祈りして、送る言葉とさせていただきます。

